

ばら教室学生ボランティア事業からみる  
外国籍児童生徒の「笑顔の“もと”」を育む教育

可児市教育委員会

### 1 はじめに

現在可児市は外国籍市民が過去最多で増え続けています。令和5年4月1日時点で、外国籍市民は8,431名で、市全体の人口の8.4%を占めています。市立小中学校に在籍する外国籍児童生徒数は、807名、全児童生徒数の10.2%となっており、そのうち日本語指導を必要とする児童生徒数は429名です。国籍別では、フィリピン437名(全外国籍児童生徒の54.1%)、ブラジル314名(38.9%)となっています。

このような現状に対応するため、可児市では外国籍児童生徒への各種支援事業を行っており、その一環としてばら教室 KANI は、初期日本語指導を行う公立の施設として国内で初めて作られました。来日して初めて日本の小中学校に編入する外国籍児童生徒を対象とし、学校教育で必要な生活指導や初期日本語指導の他、算数・数学の教科指導等を行っています。

### 2 可児市の目指す教育とばら教室

可児市では、平成15～16年度に「外国人の子どもの教育環境に関する実態調査」を行い、その結果、約7%の子どもが不就学となっていることが分かりました。原因には経済的困窮、言葉の壁や習慣・文化の相違への不適應などがあげられました。可児市は不就学ゼロを目指すため、平成17年に「外国人児童・生徒の学習保障事業」を策定し、それと同時にばら教室 KANI を開室しました。

現在、ばら教室 KANI は「どの子ども安心して自分をつくる居場所に」を目標に通所児童生徒への指導を行っています。可児市では「未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』を育む教育」を推進しています。ばら教室 KANI においては、未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』を「安心感」と捉え、ばら教室 KANI に通う外国籍児童生徒一人ひとりが、ばら教室 KANI での学習を通して、学校に行く楽しさに気付き安心して学べるように指導をしています。

しかし、外国籍児童生徒の増加に伴い母語を話せる指導者が足りず、子ども一人ひとりに合わせた指導が困難になっています。日本語が習得できず学業が不振になり、また友達ができず孤立してしまい自己肯定感が低下するという問題も起こっています。



### 3 大学生のボランティアの派遣

人員不足の問題を解決するため、本年度の9月から12月の4か月間でばら教室 KANI に教員を目指す大学生のボランティアを4名配置しました。最初の1か月程度は、担当の指導員1人に付き、ばら教室 KANI の指導内容を指導員から学ぶことや、問題の採点等の授業の補助を行いました。

2か月目からはばら教室 KANI の指導方法にも慣れてきたため、指導員が児童生徒一人ひとりの進捗状況を見て個別に指導が必要な児童生徒に大学生を配置し、1日サポートをしました。日本語が全く分からず、簡単な指示もほとんど通じない児童生徒の学習をサポートすることは想像以上に



大変ですが、学生ボランティアは試行錯誤しながら粘り強く取り組みました。教材の提示の仕方を工夫したり、表情やジェスチャーをふんだんに取り入れたりするなど、児童生徒が楽しく学習できるように工夫を重ねました。休み時間では児童生徒の様子を見て、一緒に遊ぶことや授業の準備を見届けました。このように個別にサポートが必要な児童生徒は複数いるため、サポートする児童生徒の順番を決めて平等に学習支援しました。

給食では児童生徒と一緒に昼食を取り、日本の生活指導を行う一方で、児童生徒とのコミュニケーションを大切にしました。

#### 4 成果と課題

大学生のボランティアを配置することで、児童生徒一人ひとりに合わせた学習支援を行うことができました。また、年齢の近い大学生とふれあい、指導員には相談できないことを打ち明けることができたり、言葉は通じなくてもコミュニケーションを取ることができたりと、孤立感や不安を軽減させることができました。

ばら教室 KANI の指導員全員からは、大学生が行った支援方法の工夫や児童生徒への接し方について高評価を頂きました。授業の直接的なサポートにあたる人員の拡充は、指導員の負担軽減にもつながりました。

大学生からは「これまでの大学での学習や教育実習では、外国籍児童生徒と実際にふれあう機会が少なかったため、教員を目指す上で大変勉強になった」という意見を聞くことが出来ました。

今回の事業を通して、児童生徒一人ひとりに合わせた支援ができたことや、指導員がより充実した指導を児童生徒全体に行うことができたこと等、たくさんの成果がありました。現在通所している児童生徒には安心感や学校に通う楽しさをより実感させることができたと思います。また教員を目指す大学生ボランティアを採用したことで、未来の教員を育成する一助にもなったと思います。人材確保や財源、勤務内容の精選等、市としてまだまだ勘案しなければならないことはありますが、外国籍児童生徒の「未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』を育む教育」の一つとして、ばら教室 KANI と協力し今後も継続していきたいと考えています。

